

施策評価シート

評価年度	平成25年度	事業実施年度	平成24年度	施策主管次長名	協働部次長 天野 達也	
施策番号	57	施策名	生きがいを持って楽しく暮らせるまち		総合計画掲載頁	106
関係課名	協働推進課、生涯学習課、高齢福祉課、教育行政課					

1. 施策の概要

施策の目的	対象	市民	対象指標名	単位	H23実績	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
			①人口	人	57762	59,141	61,400	62,500	63,700	64,700
			②高齢者(65歳以上)	人	8,290	8,831	9,100	9,400	9,700	9,900
	③									
意図	生涯にわたり豊かな生活を過ごしてもらう				成果指標名	①生涯学習講座受講者 ②生涯学習自主活動者 ③生涯学習に満足している人の割合 ④シルバー人材センター会員数				

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	生涯学習講座受講者	人	3,024	3,300	3,206	3,074	3,320	3,320	3,500
①	指標設定の考え方と把握方法	生きがいを持って楽しく暮らすためには、市民自らが学びたいことや楽しみたいことを生涯を通じて学習、自主活動することであり、市が開催する講座の実績や資料で把握。							
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	生涯学習自主活動者	人	1,996	2,000	2,096	2,170	2,210	2,250	2,290
②	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動する個人および団体を、市、教育委員会、文化協会の資料により把握する。							
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	生涯学習に満足している人の割合	%	53.5%	54.0%	55.3%	56.0%	56.0%	56.0%	56.0%
③	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動することのできる環境づくりでを指標として設定し、行政評価アンケートで把握。							
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	シルバー人材センター会員数	人	323	330	322	327	332	337	343
④	指標設定の考え方と把握方法	高齢者が、生きがいを持って経験や趣味などを生かし、社会参加することの指標として設定し高齢福祉課で把握する。							

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動へ参加するとともに、仲間づくりと自主活動を行う。 ・高齢者は、積極的に知識と経験を活用して社会参加をする。 			
	行政	市民のために魅力ある学習講座の企画・開催や地区での生涯学習活動への支援をするとともに、高齢者には、就業の場を提供する。			
達成度評価	近隣との比較	・「生涯学習講座受講者」の人口割合は、豊田市、刈谷市、日進市、長久手市との比較では、本市が1番多く5.4%。「自主活動者」の割合は日進市(6.8%)、豊田市(4.8%)に次ぐ3番目(3.5%)であった。 ・「シルバー人材センター会員数・加入率」は、西三8市及び豊明、日進市との比較で、みよし市は322人(60歳以上人口の2.8%)で高浜市(436人・4.1%)、知立市(465人・2.9%)に次ぐ高い割合である。			
	過去3年間の実績との比較	・生涯学習講座受講者は、前年度比で6講座増加したため、受講者数も182人増加した。 ・生涯学習活動者は、前年度比10団体、100人増加した。 ・生涯学習に満足している人の割合は、前年度比1.8ポイント増と大幅に増加した。 ・シルバー人材センター会員数は、就労場所の減少等の関係で会員数は減少傾向にある。			
現状と課題	◆生涯学習講座開催事業については、大学との包括協定に基づいた地域連携公開講座の開催をはじめ、ライフステージに合った講座を効率よく開催しているが、受講者が固定化している傾向がみられる。 ◆生涯学習活動者については増加している。しかし数値は市関連団体等の数であり、市外および民間で自主的に活動している人数を把握することが困難である。 ◆「シルバー人材センター会員数」については、新たな就労先の開拓が見込めないため、会員の増加も見込めない。また、シルバー人材センター以外への高齢者の就労状況も把握することが困難である。				
今後の取り組みの方向性および次年度の取り組み	◆語学やパソコンなど専門的な生涯学習講座開催事業については、民業圧迫を避け新規学習者の拡大を図るため、上級者向け講座を見直し、初・中級の講座を増加する。 ◆生涯学習自主活動者については、引き続き文化展などの発表の場を提供するとともに、生涯学習情報などの発信を行い支援していく。 ◆シルバー人材センターについては、企業訪問等により新たな就労先の開拓を行い、ワークシェアリング等有効活用しを行い会員の増加を目指すよう支援していく。 (26年度の取り組み) 生涯学習講座開催事業においては、大学との包括協定による地域連携公開講座の開催などを通して新規受講者の拡大を図る。				
市民意識	重要度	低い	満足度	高い	平成24年度市民アンケート調査による